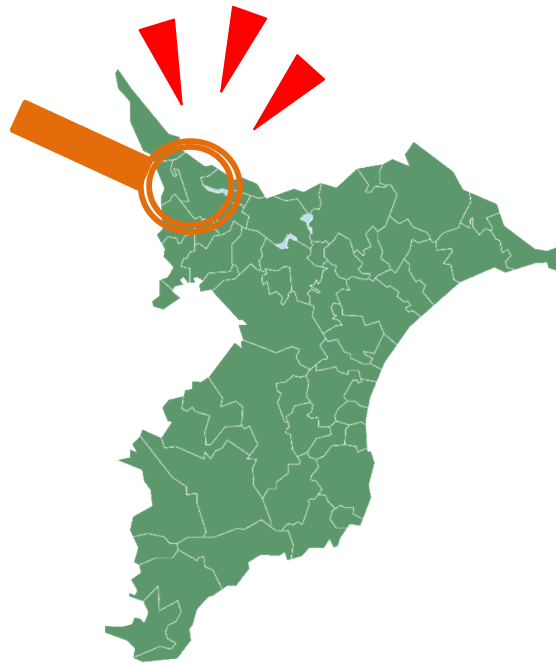


2026・2

# 柏の景気情報

令和8（2026）年2月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和8年2月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

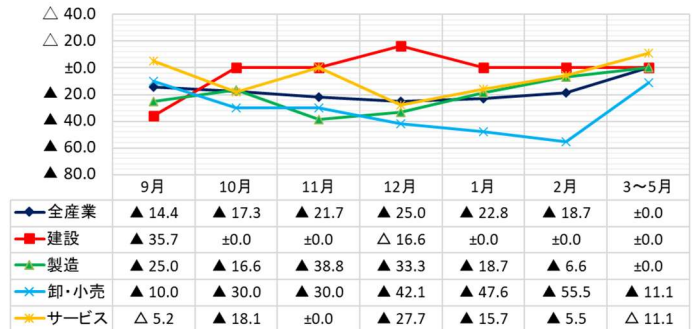
回答期間：令和8年2月18日～令和8年3月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数64

**継続するコスト高と人手不足が収益を圧迫。国際情勢や制度変更等で不透明な先行きに警戒感。**

2月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲18.7（前月水準▲22.8）となりマイナス幅が4.1ポイント縮小した。

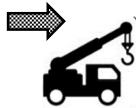
各業界、原材料や光熱費等の高騰によるコスト増を懸念。建設業、製造業、サービス業の、一部では売上が増加したものの、コスト上昇分に打ち消され、採算の悪化が継続。今後の世界情勢や消費税減税などの制度変更による外的要因が、先行きの不透明感を強めており、不安視する声多数。

柏の景気情報・産業別業況DI



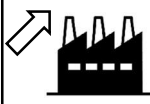
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



### 建設業

「ガソリンの燃料費はやや低下したものの、引き続き光熱費、材料費等は上昇しており、コスト上昇に注視しなければならない。またイラン情勢の悪化により、国際情勢の影響にも注視する必要が高まっている。幸いにも、今年も1月以降の役員給与を約6%上昇させることができた。BCP対応のための設備投資、行動計画の再確認を行う予定である。人材確保については、まず身内からの確保を検討する」（地質調査）「仕入れ単価が上がっているの、上敷きごとの価格の値段が5年前の倍に。お客様に納得していただいてからの発注となっている」（畳工事請負・畳製造販売）



### 製造業

「相変わらず化粧品容器の受注に勢いがいい。医療品容器クライアントの新企画案件が具現化すれば業績回復につながる」（プラスチック加工）「売上高は増加傾向にあるが、相変わらず原材料・物品等のコスト増にて収益率は微増。今後、社員へベースアップ等で還元出来るかが課題」（その他の鉄鋼）



### 卸・小売業

「2月に入り食品とヘルス&ビューティーが堅調で売上が牽引している。住居余暇関連は学童を中心とした文具とエアコンが堅調で持ちこたえている。懸念事項は衣料でホビー以外は大きく落ち込んだままで、今後の展望も暗い。高市政権の圧勝により政策の実行スピードも上がり、経済に好影響を与えて業績の改善スピードも上がる。経費の適正化も進んでおり利益の改善も売上の上昇と歩調を合わせて堅調に推移するであろうと予測している」（大型小売店）「元来2月は売り上げが低い、今年は輪をかけて良くなかった。複数の景気対策が欲しい」（その他の各種商品小売）



### サービス業

「不動産の売買については、価額が低い物件は引き合いが多い。売却相談は多い。建築資材の高騰や人件費の値上げにより、建築費が上昇している。金利も上がっているの、買い客も購入に慎重になっている」（不動産管理）「既存のビジネスモデルでは通用しなくなるのは明白。食材仕入れや他経費が高騰する中で、その分をどこで補うか・別の販売方法を開拓するか、模索しながらハマるものを見つけていくしかない。外部要因のせいにしても始まらないが、舵取りは年々難しくなっていると感じる。」（飲食店）「仕入れ価格の上昇と従業員の不足の状況に改善みられず。今後、消費税減税により、仕入れ税額控除がなくなり、消費税の増額とともに、消費税減税による食品価格の便乗値上げなどが起こると採算悪化を懸念」（日本料理）

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲18.7に対し、「CCI-LOBO」が▲16.8で、柏のほうがマイナス幅が1.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.7	 ± 0.0	 ▲ 6.6	 ▲ 55.5	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 16.8	 ▲ 13.6	 ▲ 13.6	 ▲ 24.8	 ▲ 13.0
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.0	 7.6	 ▲ 20.0	 ▲ 44.4	 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 5.9	 ▲ 11.4	 ▲ 2.8	 ▲ 7.7	 ▲ 0.8
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.8	 ± 0.0	 ▲ 33.3	 ▲ 44.4	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 17.3	 ▲ 16.7	 ▲ 12.0	 ▲ 20.2	 ▲ 18.6
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 57.8	 ▲ 53.8	 ▲ 40.0	 ▲ 61.1	 ▲ 72.2
CCI-LOBO	 ▲ 57.0	 ▲ 63.0	 ▲ 52.0	 ▲ 61.4	 ▲ 56.1
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.7	 38.4	 ± 0.0	 5.5	 33.3
CCI-LOBO	 21.8	 38.3	 16.2	 16.6	 25.0
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.2	 ▲ 7.6	 ▲ 6.6	 ▲ 16.6	 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 12.4	 ▲ 6.8	 ▲ 11.6	 ▲ 18.2	 ▲ 13.2

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：2025年2月10日～17日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは、設備投資需要がけん引し3か月ぶりに改善**

先行きは、物価高対策等への期待感から明るい兆し

2月の全産業合計の業況DIは、▲16.8と前月比からプラス1.1ポイント。

建設業では、公共工事や設備投資が底堅く推移する中、大雪の影響による除雪作業が増加したほか、製造業では、引き続き堅調な設備投資・半導体需要を背景に機械器具関係で引き合いが見られ、改善した。

日本海側を中心とした大雪など、悪天候による物流遅延や外出控えが発生しており、配送の遅れに伴う生鮮品の相場上昇や、小売店や飲食店における客数減少が広く聞かれた。もともと、高水準での賃上げが消費マインドを下支えしていることに加え、自家需要を中心としたバレンタイン商戦も追い風と

なり、業況は3か月ぶりに改善した。

やや長い目でみると、2025年2月をボトムに回復傾向がうかがえる。

先行き見通しDIは、▲13.6と今月比からプラス3.2ポイント

物価高による消費者の節約志向の高まりや、円安の長期化を含むコスト高とその分の価格転嫁や人手不足など、中小企業を取り巻く環境は引き続き厳しい。また、国際情勢の不安定化を懸念する声も継続して聞かれている。

一方、好調な観光需要に加え、高水準での賃上げが続く中、政府・自治体による物価高対策への期待感もあって、消費マインドは持ち直し傾向が見込まれる。

#### 【建設業】

「除雪関係の受注が増加しており、仕事は十分ある。むしろ積雪が多すぎて対応が間に合っていない」（一般

#### 工業業

「働き方改革の影響で、工期が2年度以上にわたる案件が増加している。人手不足の影響で受注を制限をしている中、受注のサイクルを見直す必要があると感じている」（管工事業）

#### 【製造業】

「半導体関連の受注が増えている。足もとのコスト高に伴い客先が海外の廉価品の使用にシフトしないよう、政府としても成長産業における国内調達の強化を支援してほしい」（金属製品製造業）

「価格転嫁を行っているが、人件費増加分は賄えていない。今後は、競合の少ない製品のシェアを拡大し、利益率を高める方針」（自動車・附属品製造業）

#### 【卸売業】

「昨年の北海道産の野菜の不作により、一部の野菜品目の高値が継続している。こうした中、大雪の影響による物流遅延の影響により、一段と

相場が上昇しており、輸入に頼らざるを得ない状況」（農畜産水産物卸売業）

「メモリ等の値上げ予想を受け、パソコンの買い替え需要が高まりつつあるほか、セキュリティ対策の相談が増加している」（一般機械器具卸売業）

#### 【小売業】

「バレンタイン商戦が、ギフト需要から自家需要に変化している。自分への「褒美」として購入する客が多く、高価格帯チヨコレートの販売が好調に推移した。王道ブランドに加え、SNS映えする商品やイートイン企画が集客に寄与し、各店舗の回遊性も上がり、全体の客数増加につながった」（百貨店）

「祝日や週末のタイミングに悪天候が重なり、客数が減少している」（自動車販売業）

#### 【サービス業】

「近隣の空き家を活用したインバウンド向け宿泊施設が増えた影響で、当店にも利用の問い合わせが増加している。外

国人向けメニューの作成などの多言語対応を講じていきたい」（飲食店）

「悪天候で通行止めが多く発生しており、配送に苦労している」（運送業）

### 全国・産業別業況DIの推移

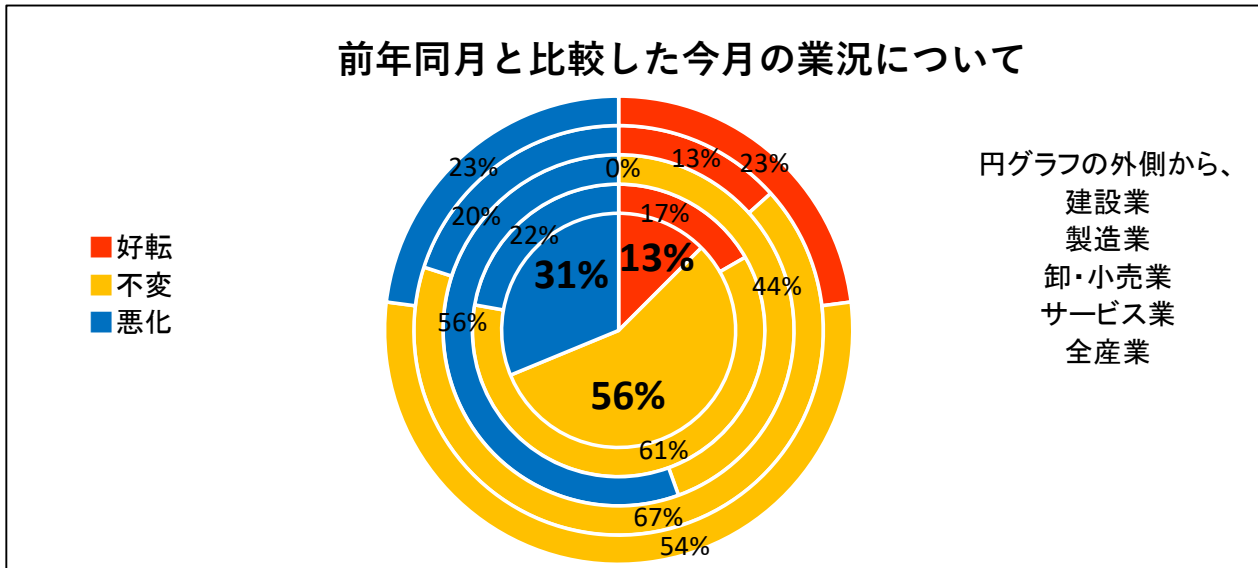
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲18.6	▲10.2	▲23.9	▲24.8	▲23.6	▲12.3
10月	▲18.9	▲13.5	▲21.0	▲24.2	▲29.3	▲10.0
11月	▲17.9	▲16.5	▲19.7	▲24.7	▲26.4	▲7.7
12月	▲18.0	▲14.7	▲21.6	▲23.4	▲24.0	▲9.9
1月	▲17.9	▲15.2	▲17.2	▲23.8	▲25.1	▲12.1
2月	▲16.8	▲13.6	▲13.6	▲23.5	▲24.8	▲13.0
見通し	▲13.6	▲12.0	▲11.4	▲17.4	▲18.9	▲11.0

# 令和8年（2026年）2月の動向

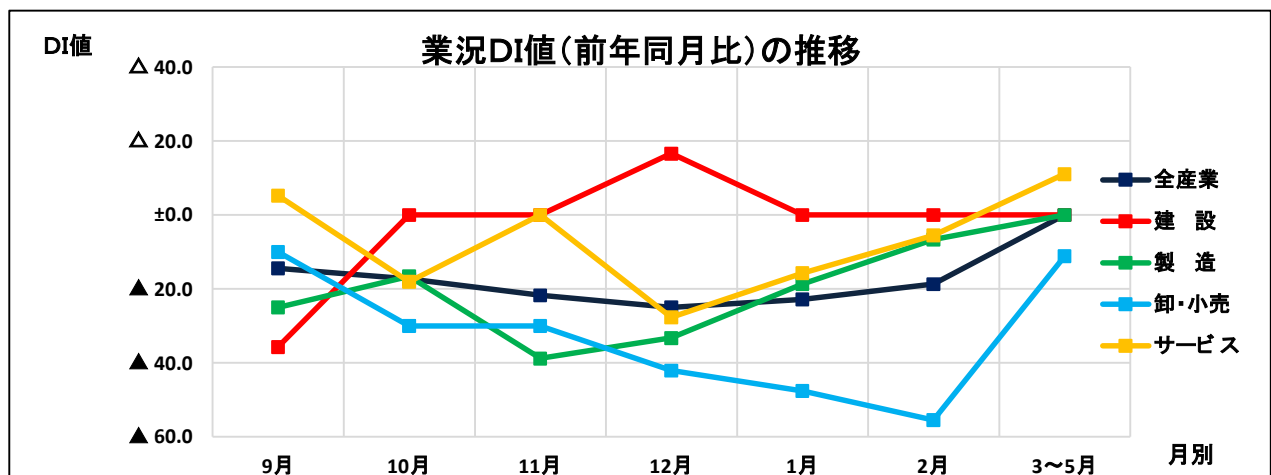
## 【業況について】

- 2月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲18.7（前月水準▲22.8）となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（3月から5月）の先行き見通しについては、全産業では、△0.0（前月水準△0.0）となり、変化はなかった。



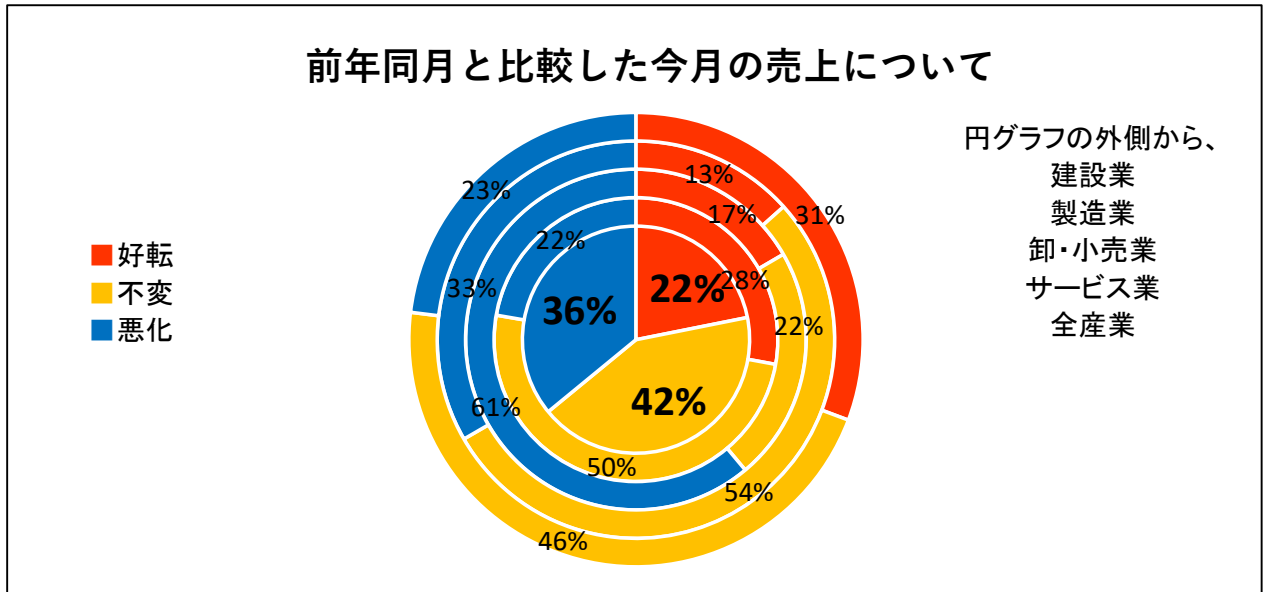
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年				令和8年		先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 (   2~4月 )	
全産業	▲14.4	▲17.3	▲21.7	▲25.0	▲22.8	▲18.7	±0.0 ( ±0.0 )	
建設	▲35.7	±0.0	±0.0	△16.6	±0.0	±0.0	±0.0 ( △7.1 )	
製造	▲25.0	▲16.6	▲38.8	▲33.3	▲18.7	▲6.6	±0.0 ( ▲6.2 )	
卸・小売	▲10.0	▲30.0	▲30.0	▲42.1	▲47.6	▲55.5	▲11.1 ( ▲9.5 )	
サービス	△5.2	▲18.1	±0.0	▲27.7	▲15.7	▲5.5	△11.1 ( △10.5 )	



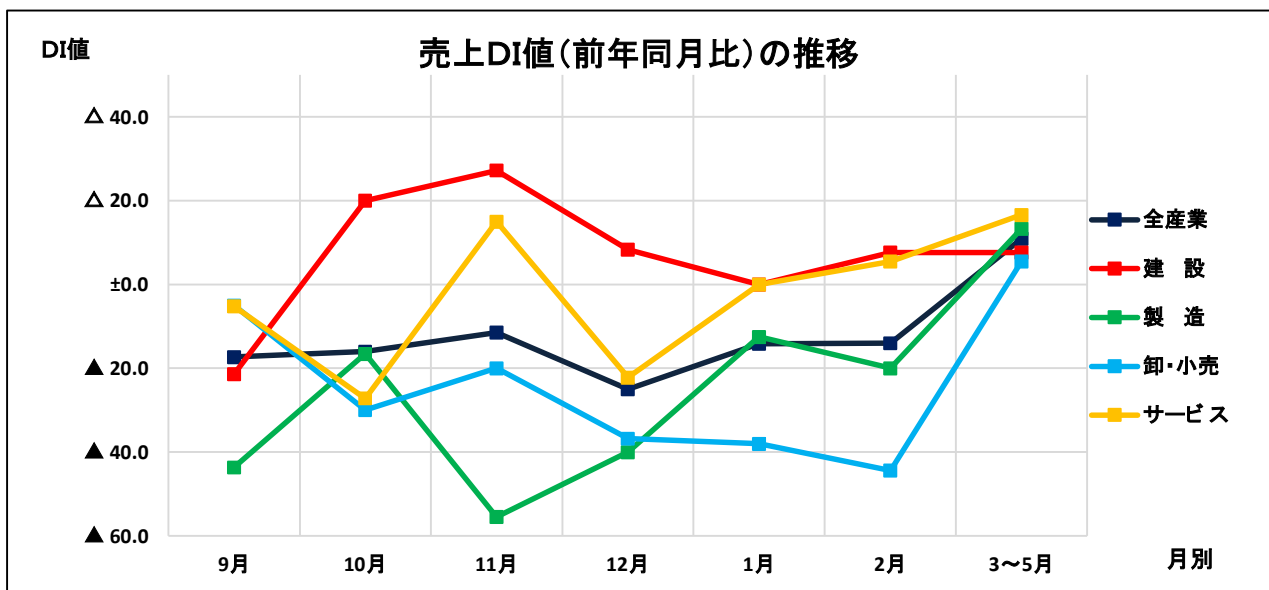
【売上について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.0(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅0.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.9(前月水準△1.4)となり、マイナス幅が9.5ポイント縮小した。



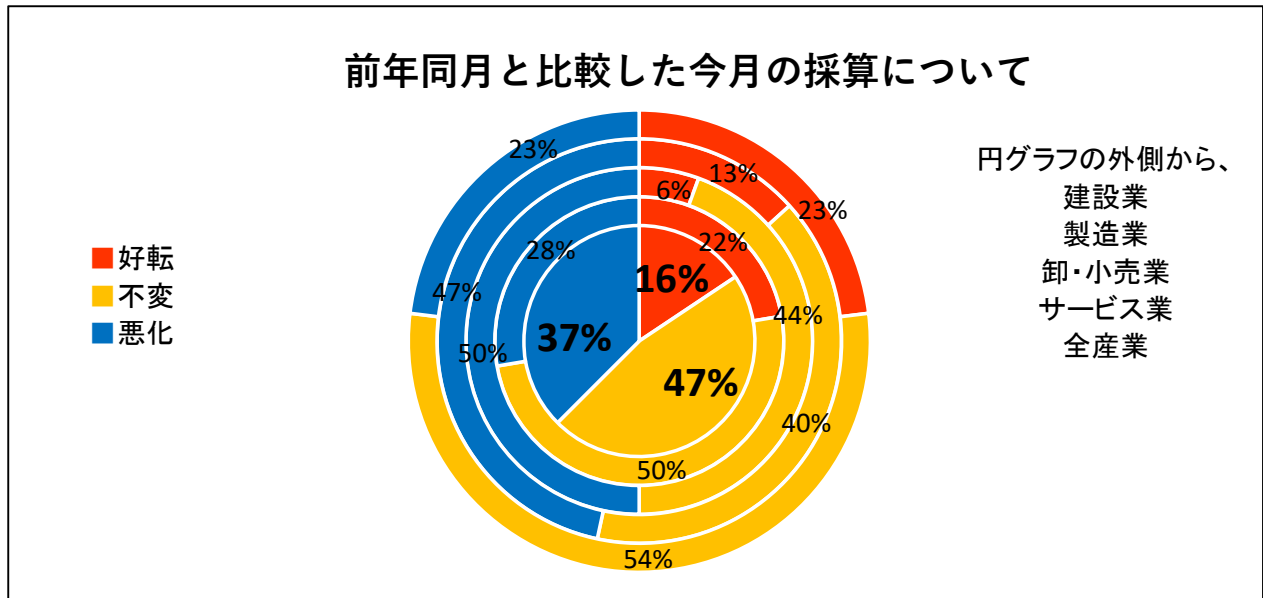
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和7年				令和8年		先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 (   2~4月 )	
全産業	▲17.3	▲16.0	▲11.5	▲25.0	▲14.2	▲14.0	△10.9 ( △1.4 )	
建設	▲21.4	△20.0	△27.2	△8.3	±0.0	△7.6	△7.6 ( △21.4 )	
製造	▲43.7	▲16.6	▲55.5	▲40.0	▲12.5	▲20.0	△13.3 ( ▲6.2 )	
卸・小売	▲5.0	▲30.0	▲20.0	▲36.8	▲38.0	▲44.4	△5.5 ( ▲9.5 )	
サービス	▲5.2	▲27.2	△15.0	▲22.2	±0.0	△5.5	△16.6 ( △5.2 )	



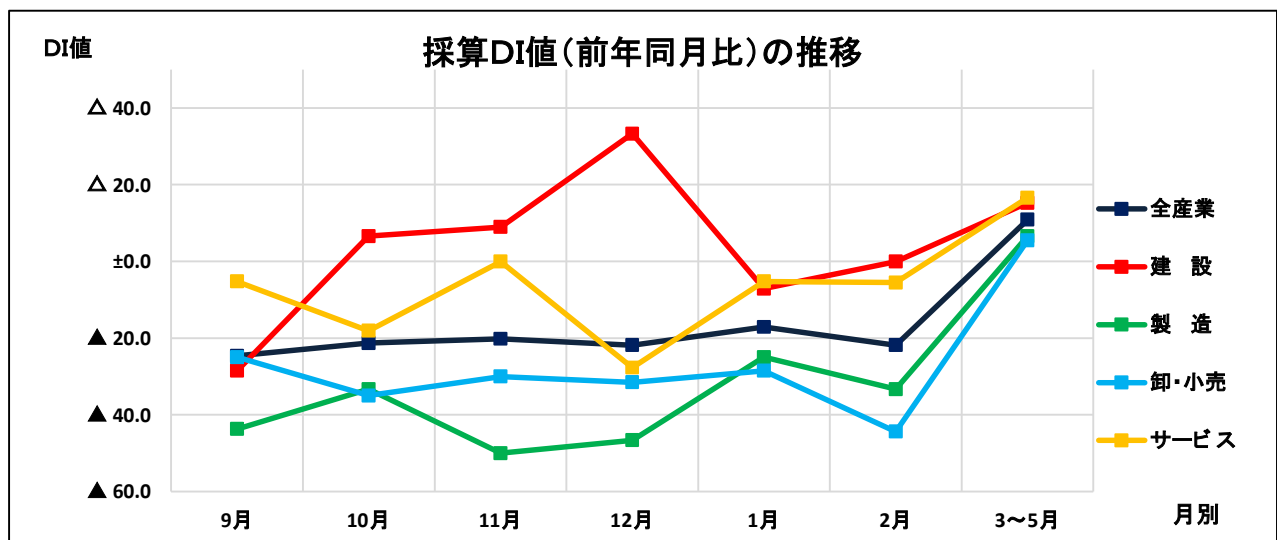
【採算について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.8(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が4.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.9(前月水準△1.4)であり、マイナス幅が9.5ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

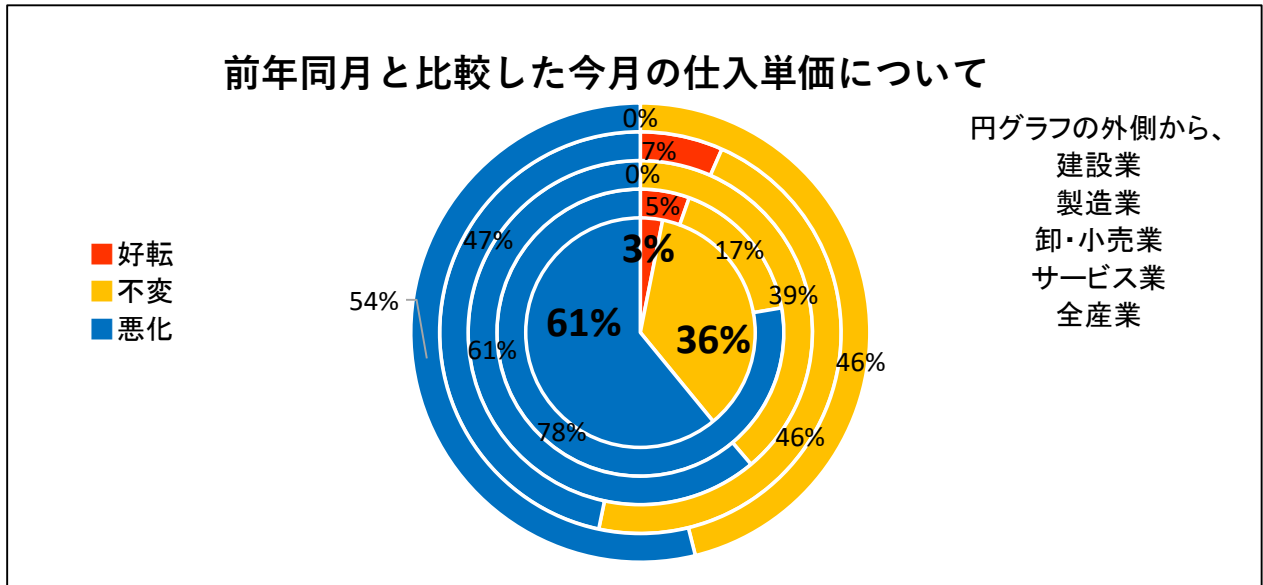
	令和7年				令和8年		先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 ( 2~4月 )	
全産業	▲24.6	▲21.3	▲20.2	▲21.8	▲17.1	▲21.8	△10.9 ( △1.4 )	
建設	▲28.5	△6.6	△9.0	△33.3	▲7.1	±0.0	△15.3 ( △14.2 )	
製造	▲43.7	▲33.3	▲50.0	▲46.6	▲25.0	▲33.3	△6.6 ( ±0.0 )	
卸・小売	▲25.0	▲35.0	▲30.0	▲31.5	▲28.5	▲44.4	△5.5 ( ▲9.5 )	
サービス	▲5.2	▲18.1	±0.0	▲27.7	▲5.2	▲5.5	△16.6 ( △5.2 )	



【仕入単価について】

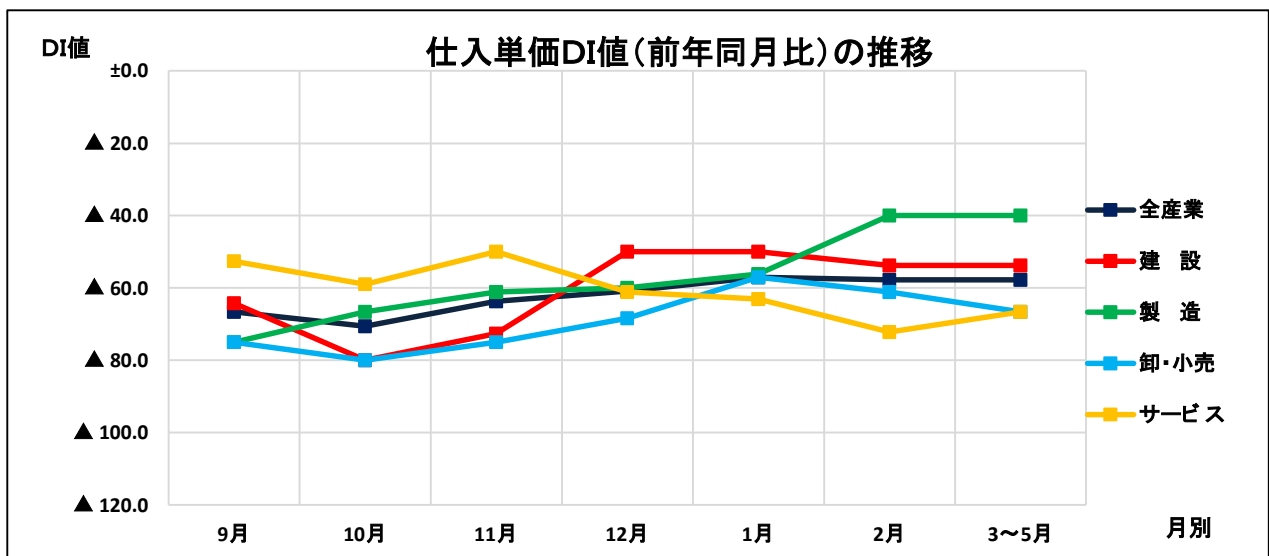
○ 2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲57.8(前月水準▲57.1)となり、マイナス幅0.7ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲57.8(前月水準▲52.8)となり、マイナス幅が5.0ポイント拡大する見通しである。



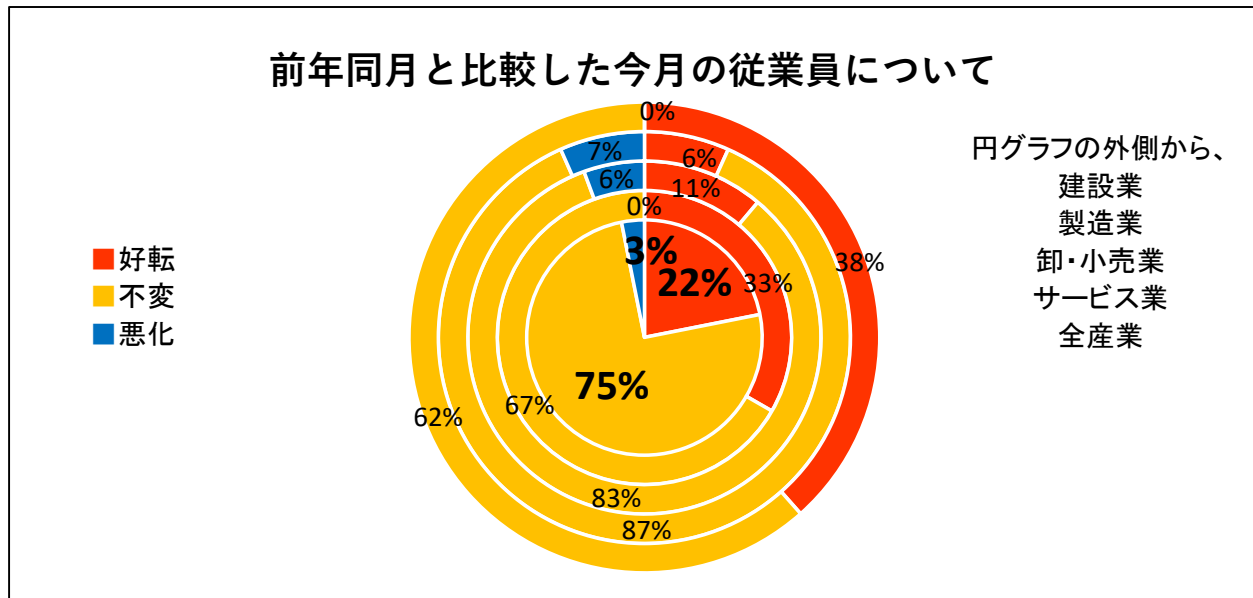
仕入単価D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和7年				令和8年		先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 ( 2~4月 )	
全産業	▲66.6	▲70.6	▲63.7	▲60.9	▲57.1	▲57.8	▲57.8 ( ▲52.8 )	
建設	▲64.2	▲80.0	▲72.7	▲50.0	▲50.0	▲53.8	▲53.8 ( ▲42.8 )	
製造	▲75.0	▲66.6	▲61.1	▲60.0	▲56.2	▲40.0	▲40.0 ( ▲37.5 )	
卸・小売	▲75.0	▲80.0	▲75.0	▲68.4	▲57.1	▲61.1	▲66.6 ( ▲66.6 )	
サービス	▲52.6	▲59.0	▲50.0	▲61.1	▲63.1	▲72.2	▲66.6 ( ▲57.8 )	



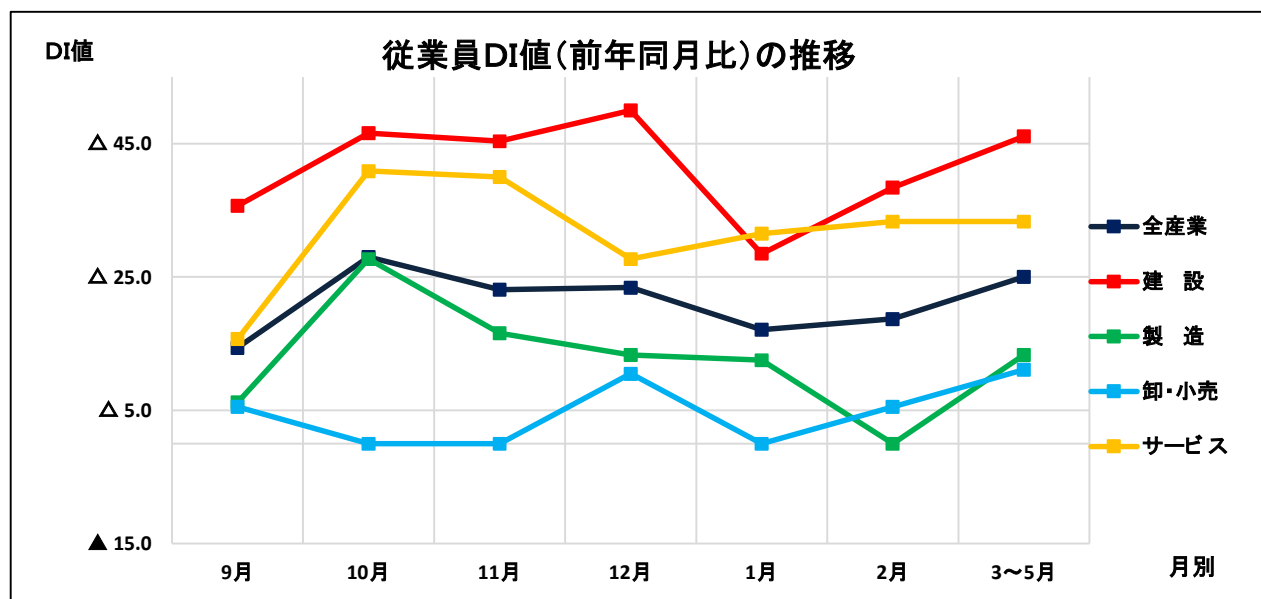
【従業員について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.7(前月水準△17.1)となり、プラス幅が1.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△25.0(前月水準△22.8)となり、プラス幅2.2ポイント拡大する見通しである。



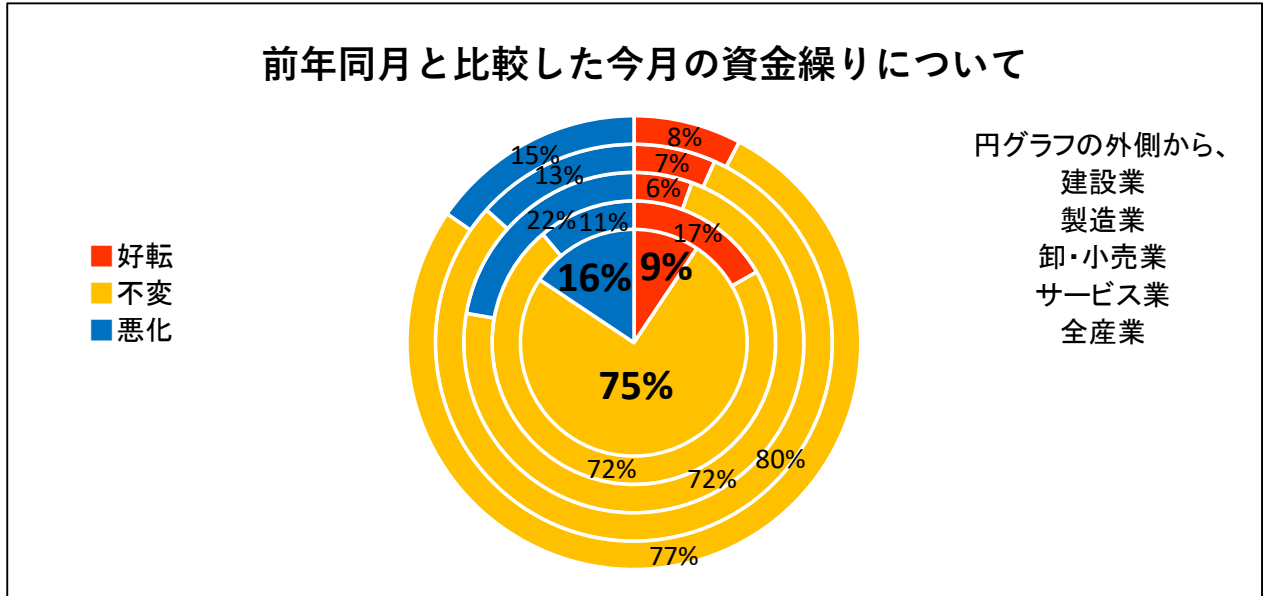
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和7年				令和8年		先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 ( 2~4月 )	
全産業	△14.4	△28.0	△23.1	△23.4	△17.1	△18.7	△25.0 ( △22.8 )	
建設	△35.7	△46.6	△45.4	△50.0	△28.5	△38.4	△46.1 ( △28.5 )	
製造	△6.2	△27.7	△16.6	△13.3	△12.5	±0.0	△13.3 ( △31.2 )	
卸・小売	△5.5	±0.0	±0.0	△10.5	±0.0	△5.5	△11.1 ( ±0.0 )	
サービス	△15.7	△40.9	△40.0	△27.7	△31.5	△33.3	△33.3 ( △36.8 )	



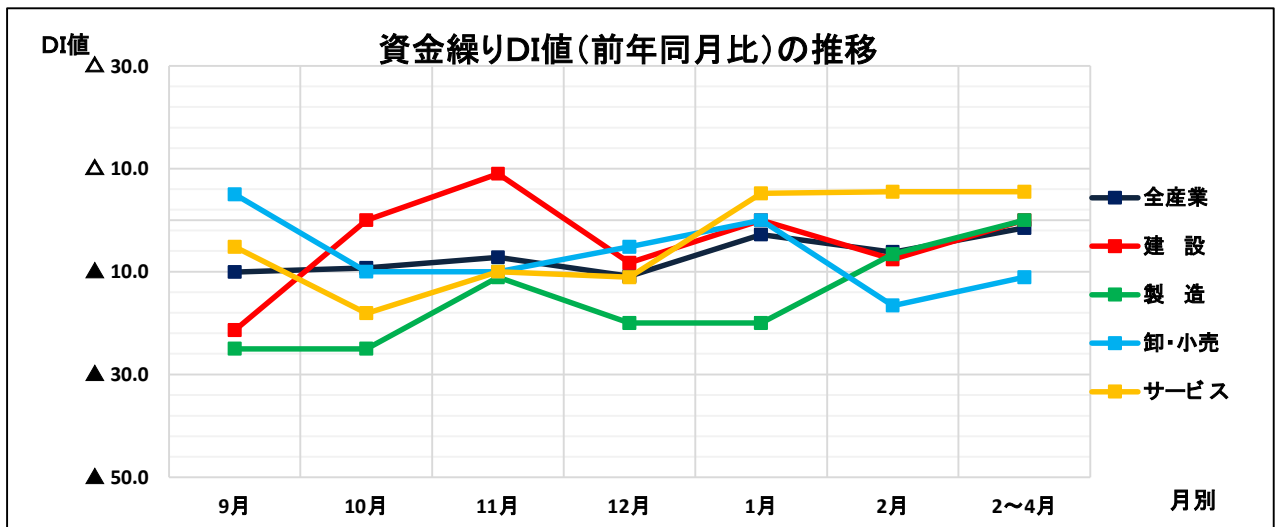
【資金繰りについて】

- 2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.2(前月水準▲2.8)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.5(前月水準△2.8)となり、マイナス幅が4.3ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年				令和8年		先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2~4月	(2~4月)
全産業	▲10.1	▲9.3	▲7.2	▲10.9	▲2.8	▲6.2	▲1.5	(△2.8)
建設	▲21.4	±0.0	△9.0	▲8.3	±0.0	▲7.6	±0.0	(△7.1)
製造	▲25.0	▲25.0	▲11.1	▲20.0	▲20.0	▲6.6	±0.0	(▲6.2)
卸・小売	△5.0	▲10.0	▲10.0	▲5.2	±0.0	▲16.6	▲11.1	(±0.0)
サービス	▲5.2	▲18.1	▲10.0	▲11.1	△5.2	△5.5	△5.5	(△10.5)

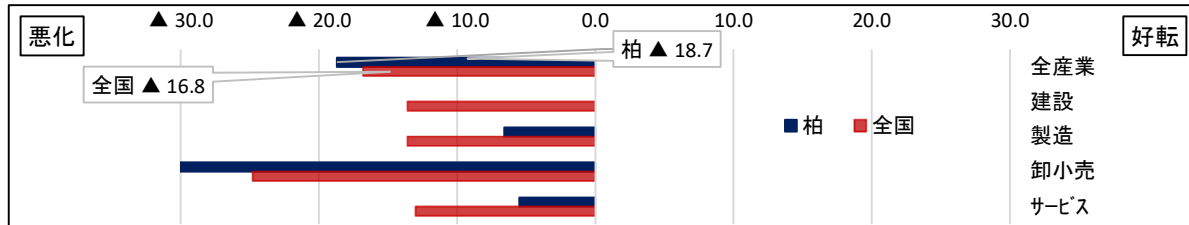


# 全国（CCI-LOBO）との比較

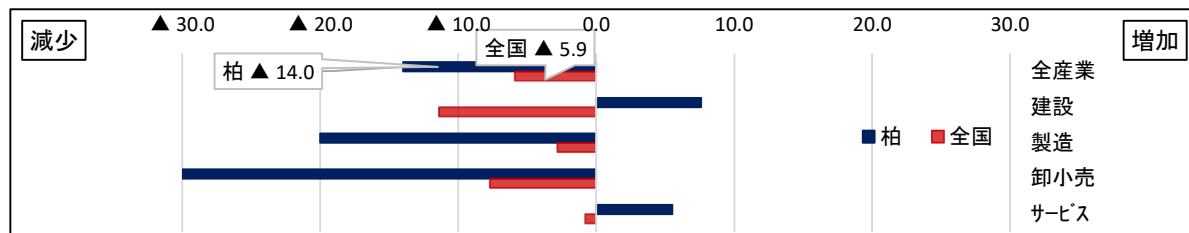
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

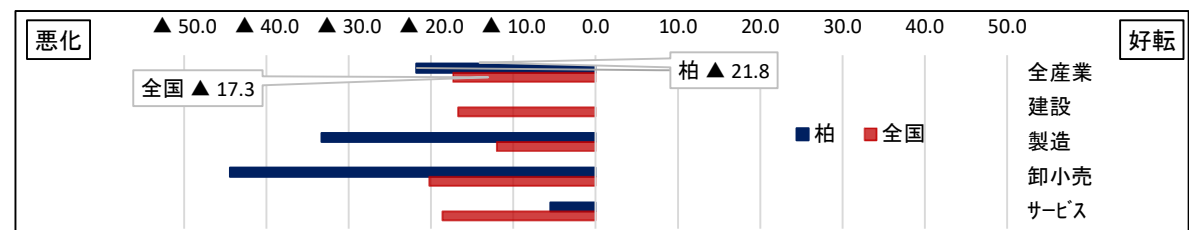
### 【業況DI】



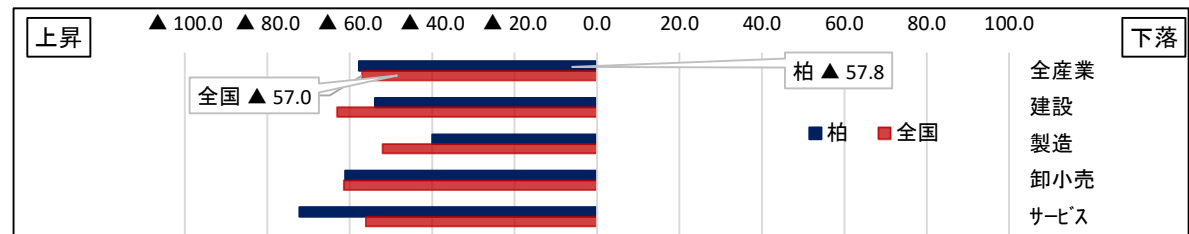
### 【売上DI】



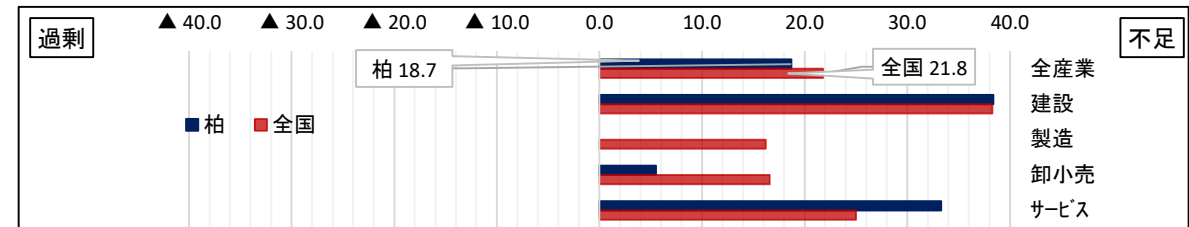
### 【採算DI】



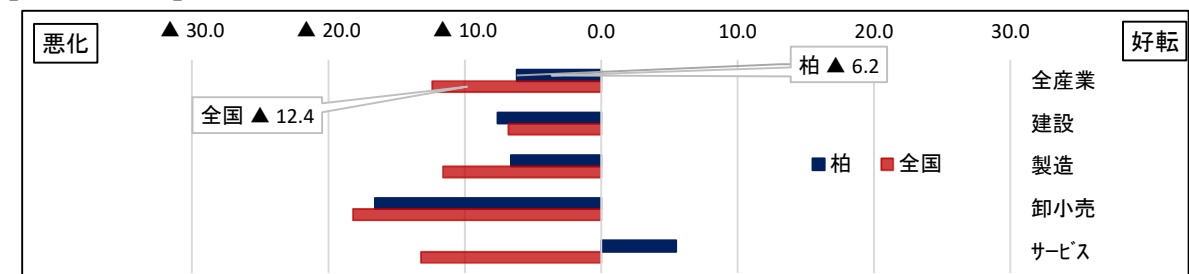
### 【仕入単価DI】



### 【従業員DI】



### 【資金繰りDI】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
<b>建設業</b>	仕入れ単価が上がっているため、上敷きごとの価格の値段が5年前の倍にお客様に納得していただいているため発注となっております。	畳工事請負・畳製造販売業
	いかに安心を担保するか、価格だけではない信用が顧客の判断基準になってきている	一般土木建築工事業
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンの燃料費はやや低下したものの、引き続き光熱費、材料費等は上昇しており、コスト上昇に注視しなければならない。またイラン情勢に悪化により、国際情勢の影響にも注視する必要がある。</li> <li>・幸いに今年も1月以降の役員給与を約6%上昇させることができた。</li> <li>・BCP対応のための設備投資、行動計画の再確認を行う予定である。</li> <li>・人材確保については、まず身内からの確保を検討する。</li> </ul>	地質調査・地質コンサルタント
<b>製造業</b>	相変わらず化粧品容器の受注に勢いがいい。医療品容器クライアントの新企画案件が具現化すれば業績回復につながる。	プラスチック加工
	売上高は増加傾向にあるが、相変わらず原材料・物品等のコスト増にて収益率は微増。これから社員にベア等で還元出来るかが課題。	その他の鉄鋼業
<b>卸・小売業</b>	2月に入り食品(全体的)とヘルス&ビューティー(インフルエンザB型及び花粉飛散)が堅調で売上を牽引している。住居余暇関連は学童を中心とした文具とエアコンが堅調で持ちこたえている。懸念事項は衣料でホビー以外は大きく落ち込んだままで、今後の展望も暗い。高市政権の圧勝により政策の実行スピードも上がり、経済に好影響を与えて業績の改善スピードも上がる。経費の適正化も進んでおり利益の改善も売上の上昇と歩調を合わせて堅調に推移するであろうと予測している。	大型小売店
	*元来2月は売り上げが低い、今年は輪をかけて良くなかった。複数の景気対策が欲しい。	その他の各種商品小売業
<b>サービス業</b>	私立高校の授業料無償化の影響で、私立高校に進学を希望する生徒が増えている。私立高校に進学すると塾に残らない生徒が多いため、売り上げに影響が出るのが心配。	学習塾
	「近年、気になる事柄」東口の再開発等検討委員会を商工会議所内に作ることは大反対です。まずは会頭の絡んでいる高島屋含めた西口再開発の復活が先と思います。	不動産賃貸業
	既存のビジネスモデルでは通用しなくなるのは明白。食材仕入れや他経費が高騰する中で、その分をどこで補うか・別の販売方法を開拓するか、模索しながらハマるものを見つけていくしかない。外部要因のせいにしては始まらないが、舵取りは年々難しくなっていると感じる。打開したいので、ご相談に乗っていただきたい。	飲食店
	不動産の売買については、価額が低い物件は引き合いが多い。売却相談は多い。建築資材の高騰や人件費の値上げにより、建築費が上昇している。金利も上がっているため、買い客も購入に慎重になっている。	不動産管理業

## 【業種別】業界内トピックス

	仕入れ価格の上昇と従業員の不足の状況に改善みられず。 今後、消費税減税により、仕入れ税額控除がなくなり、消費税の増額とともに、消費税減税による食品価格の便乗値上げなどが起こると採算悪化を懸念。	日本料理

# 調査要領

回答期間

令和8年2月18日 ～ 令和8年3月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	64	37.0%
建設	38	13	34.2%
製造	44	15	34.1%
卸・小売	46	18	39.1%
サービス	45	18	40.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こ う3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				